

平成 24 年度
草津市教育委員会事務
外部評価委員会 会議録

第 3 回会議
(平成 25 年 8 月 30 日開催)

草津市教育委員会

外部評価委員	委員長 委員 委員	兒玉 典子 久保 明雄 長谷川 奈緒
教育委員	委員長 委員 委員 委員 教育長	小西 明 馬場 輝代 村山 美智子 麻植 美弥子 三木 逸郎
議事参与	教育部長 教育部副部長（総括） 教育施設整備室長 教育部副部長（学校給食担当） 教育部副部長（街道交流担当） 教育部副部長（学校教育担当） 教育総務課長 生涯学習課長 スポーツ保健課長 文化財保護課長 図書館長 学校教育課長	加藤 幹彦 小寺 繁隆 吉川 寛 梅原 正雄 八杉 淳 清水 康行 山本 美佐子 堀田 智恵子 高岡 良秀 谷口 智樹 今井 知春 糠塚 一彦
事務局	教育総務課副参事 教育総務課主事	松浦 正樹 齋藤 美咲

開会 午後 1時30分

教育部副部長
(総括)

お待たせしております。ただいまから、平成25年度第3回草津市教育委員会事務外部評価委員会を開会させていただきます。

本日はまず前回までの会議録についての御承認を賜りました後、教育委員にお入りいただきまして、懇談を進めてまいりたいなというふうに考えております。

終了予定時刻は午後3時ごろを予定いたしておりますので、よろしくお願ひいたします。それでは、兒玉委員長、よろしくお願ひします。

兒玉委員長

はい、ありがとうございます。それでは、皆様のお手元に第1回と第2回の外部評価委員会の会議録がございますので、その議事録の、会議録の確認をさせていただきたいと思います。事前にもうお目を通していただいたと思いますけれども、お気づきの点、内容について、幾つか御意見がありましたら、賜りたいと思います。何かございますでしょうか。

久保委員

よろしいですか。

兒玉委員長

はい、どうぞ、久保先生。

久保委員

読ませてもらって、大きく意見があつて、ここを変えてもらわんとかいうふうに思うようなことはないんですけど、ちょっと細かい文言で、会議録のことですので、気がついたところをちょっと二つ三つだけ申しあげます。

読ませてもらって、自分がいかにまともらん言い方で、事務局のかたにお世話をかけたなということを痛感してるので、恥ずかしいのですが、これは何ページ目になるのか、ちょっと語尾とかで、最初から、開会から1、2、3、4枚めくっていただいたところで、その前のページから、まちづくり協議会の学区の活動と合わせてとかって、私が発言させてもらったとこの、その次の2行目が、何か回りくどい言い方で、このように申しあげたので、こう書いてくれはるんですが、2行目の、「いろんな意味で、いろんな面で影響していくのか」ということの、多分見守っていただかんなんならん」とか何か、もうこの恥ずかしい限りなんで、言うのもおこがましいのですが、一つ「な」が要らんのかなと思つたりしました。「多分見守っていただかんならんのだろうなというふうに」、というふうに言った方が多かったんかな、回りくどい言い方で申しわけございません。

それから、読んでましたついでに、その次の委員長の兒玉先生が話されてい
る、一番最後の分で、私の方から一つの、次（4）－2じゃなくて、これは
(4)－1だったんではないかな。ずっと読ませてもらって思いました。その
ぐらいです、後は。早いことまとめていただいたと思って。2回目は後でまた、
2回目のとこもちょっと同じようなことで、ちょっと。

兒玉委員長

そうしましたら、2回目も合わせて。

久保委員

ああ、そうですか。2回目、どこやったっけ。生涯学習の方で、滋賀大の学
習支援士云々ということを説明されたとこの学習支援士が、ちょっと、漢字が
違ったので、これ多分、ちょうど真ん中の辺ですので、恐縮なんですが、後に
なかなかつながって広がっていかない部分があるんだというようなお話をされ
たときに、滋賀大の支援士の方の説明をされたときに、教師の「師」になっ
てるのが、武士の「士」ではなかったかなというようにちょっと思いました。
それぐらいです。

兒玉委員長

御確認いただけましたでしょうか、場所を。はい。

教育部長

支援士の士が武士の「士」、サムライの方ですね。

兒玉委員長

何かお気づきの点ありますか。

長谷川委員

私も1か所だけあったんですけれども、大分、真ん中の辺になるんですけど
も。

兒玉委員長

はい、1回目の真ん中ぐらい。

長谷川委員

このくらいめくったところです。

兒玉委員長

そうですか。

長谷川委員

人事評価とか、そのあたりの、（15）－1とか、15のところの説明をして
くださいました学校教育課長さんの御説明の後のところなんですが。

兒玉委員長

はい、（15）－1。

長谷川委員 15を説明してくださって16も説明してくださって、このあたりに、私の発言で人事評価の実施の割合であったり、ずっと一番、このページなのですが先ほどちょっと。

兒玉委員長 右下の方ですね。

長谷川委員 松浦さんにはお伝えさせていただいたんですが、人事評価の実施の割合ではすごく評価していることを、教育のかたがたを実際に管理されてることなので、すごく安心出来ると思いますって、この授業観察に基づいた指導をと書いてあるんですが、「それに加えて教員のかたのメンタル的な部分の観察といいますか、そういう項目がないんですけども、これを機に教員のかたの問題を起こしてしまわれるということも少なくありませんので」という、ここにあるんですが、これを機に問題を起こされたら困る、何かその発言、私がそう言ったような記憶が余りなくて、すみませんが訂正をお願いしたいんですが。

兒玉委員長 どういうふうに訂正すればよろしいですか。

長谷川委員 私は、何て言ったのかなと思うんですが、近年その教員のかたが問題を起こされるということが少なくないので、そういうメンタル部分でも管理をお願いしたいという発言に直していただけますでしょうか。

兒玉委員長 「それに加えて」、その次から変えた方がいいですか。「それに加えて、教員のかたの問題について」、どう書けばよろしいですか。

長谷川委員 「近年、教員のかたが問題を起こしてしまわれるのも少なくありませんので」というふうに変えたら話がまとまるような気がするんですが。すみません。

兒玉委員長 はい。「近年、教員のかたが問題を起こす」。

長谷川委員 後はそのまま続けても、そんなに誤解がないかなと思うんですけども。

兒玉委員長 はい。

長谷川委員 私の方から、特に気がついたところはそこぐらいです。

兒玉委員長 はい。私の方も1か所だけなんんですけど、私、昨日これを見させていただき

ながら、ページのところに付箋を貼ればよかったですけど、それをやらなかつたもんですから、どこのページということを言うことが出来なくて申しわけないです。

私の、大学の方の中期目標計画が6年単位で動いているんですけど、文中に5年というふうに書いてあって、実際にはこれ6年ですので、そういうふうに修正していただけたらなと思って、さっきから、ここ、どこの文章だったつけて一生懸命探してたんですけども、ちょっと見つけることが出来なくて、ただ、検索をもし出来ればかけていただいて、5年というところを6年に修正していただければと思います。申しわけございません。

それでは、会議録については、これでよろしいでしょうか。はい。

そうしましたら、皆様のお手元には、また評価の報告書というのがござりますけれども、この評価の報告書については、もう少し修正の部分も入るということを伺っておりますので、また完成版が出来ましたら、私どもにお送りくださいますようにお願いいたします。

これも一応皆様の目を通していただいたと思いますので、もし御自分の発言とちょっと違うなというところがありましたら、今の間によろしくお願ひしたいと思うんですけど、私の方は特にございませんでしたので、よろしいでしょうか。

そうしましたら、文言の修正等は、事務局のかたにお任せいたしますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、皆様から御意見を頂戴いたしましたので、この会議録の部分については承認されたというふうに思います。そうしましたら、一旦事務局に進行をお返しいたしますので、よろしくお願ひいたします。

教育部副部長
(総括)

それでは、続きまして、教育委員との評価委員の皆様がたとの懇談に移らせていただきたいと思いますので、教育委員がちょっとまいりますので、しばらくお待ちいただきたいと思います。

(教育委員入室)

教育部副部長
(総括)

それでは、これより外部評価委員の皆様と教育委員の懇談を始めさせていただきたいと思います。懇談を始めるに当たりまして、教育長の三木逸郎から、御挨拶を申しあげます。

三木教育長

皆さん、こんにちは。
座らせていただきます。

外部評価委員の皆さんと教育委員の懇談を始めるに当たりまして、一言御挨拶を申しあげます。外部評価委員におかれましては、お忙しい中、また大変お暑い中、これまで2回にわたり熱心に御議論をいただきましたこと、厚く御礼を申しあげます。

委員の皆様に御議論をいただいた点検評価報告書につきましては、御承知のとおり、本市の教育振興基本計画の施策体系に沿った評価項目を明確に列挙したうえで、記載内容の充実に努めているところですが、何よりも、見るものにとってわかりやすいよう、視覚的に配慮した様式であるといった点におきまして、他市にも余り例のないものであると考えております。

まだまだ行き届かない点もあるかと存じますが、皆様からの御意見を参考にしながら、今後も創意工夫を重ねてまいりたいと考えております。

さて、昨年度の点検評価におきまして、当委員会から事業の推進に当たっては、量的拡大の側面から質的進化へと移行していくことの必要性について御意見をいただきました。このことから、平成24年度事業の推進に当たっては、質的变化の側面を重視するよう各所属が心がけ、数値の増減だけでは判断出来ない部分についても一定の成果が得られたものと考えております。今年度におきましても、さきの会議で委員の皆様からいただいた御意見や励ましのお言葉を、より良い教育行政の推進のために大いに参考にしてまいりたいと思います。

御承知のように、草津市教育委員会は「開かれた行動する教育委員会」をモットーに、教育委員自らが現場に出向き、教育の現状をつかむよう努めるとともに、委員間の議論や研修に参加することで、研鑽を積み、認識を深めております。

本日は、そうした流れの中で外部評価委員の皆様と教育委員の懇談の場を設けさせていただいたところです。今回いただく貴重な御意見を糧として、更なる草津の教育の発展につなげてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上、まことに簡単でございますが、第3回目の外部評価委員会に当たっての挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願ひいたします。

教育部副部長
(総括)

それでは、兒玉委員長、進行の方よろしくお願ひいたします。

兒玉委員長

はい、ありがとうございます。

それでは、私も座ったままで失礼いたします。

本日の懇談会の、懇談のテーマというのは「教育委員会事務の点検・評価(平成24年度)について」というふうになっております。

私たち外部評価委員3名は、今年度の外部評価を進める中で感じたこと、それから草津市の教育委員会に対して期待すること、こういうようなことを懇談会の中で述べさせていただきまして、これから草津市の、教育行政のお役に立つればというふうに思っております。

それでは、初めに私ども外部評価委員から、自己紹介を兼ねまして、今回の外部評価を行わせていただいた感想を述べさせていただきたいというふうに思います。

最初に、私の方から話させていただきます。

今年で2年目となりまして、最初、草津市の教育行政がどういうふうになっているのかというのがわからない状態で外部評価をさせていただきました。

昨年度評価をさせていただいている中で、草津市はこういうふうな努力をしていただいているんだなというようなことも、いろいろとわかつてまいりました。非常にそのときにも感心したんですけども、草津市、潤沢な教育予算を有効に使っておられるということでした。

今年度またこの外部評価委員として見させていただきまして、更にその感を強くしたところです。組織というのは、いろんな事業を行っていくときに、その全てがパーフェクトに出来るということはありませんで、多少のこぼこがあるのはこれはやむを得ないということだと思います。ですから、全体的に見ると、草津市はよくやっておられるなということを感じまして、感心いたしました。これは皆様がたが絶え間ない努力を積んでいるということの反映だというふうに思っております。

これが私の感じたところでございます。それと、外部評価のこの評価項目につきましても、いろいろと評価の仕方について工夫をいただきまして、昨年度はもうちょっと質的な評価を入れた方がいいんじゃないかというふうな気持ちがありましたけれども、今年度は非常によく御苦労されているということで、ほとんど私の方からもコメントはその点に関してはございませんでした。ありがとうございます。

いろいろな点で毎年改善を続けておられるということですので、これで次の教育振興基本計画の策定と、それから次のこの、次の時期の外部評価に向けての準備が着々と整いつつあるんじゃないかなというふうに思っております。

私ども、いろんな意見を言わせていただきましたけれども、それはやっぱり草津市がこれからもっと教育行政の点でよくなるように、お子さんたちがいろんな草津市の教育の恩恵に浴して、成長していくようにという、そういう思いからでございますので、どうぞその点は御容赦願いたいというふうに思います。

先生がた、学校で教える先生がたも、今、中教審の答申の中で、生涯学び続

ける教員像というものがうたわれておりますて、教育実践の高度化というようなことも望まれているようです。ですから、恐らく今後はそういうふうな方向に向かっていくと思いますけれども、その中の一つの礎として、この外部評価があるというふうに理解しておりますので、今後ともどうぞ皆様よろしくお願ひしたいなというふうに思います。以上でございます。

それでは、次に久保先生の方からお願ひいたします。

久保委員

昨年もこの外部評価委員ということでお世話になりました。久保でございます。

2回委員会を参加させてもらっている意見を述べさせてもらっていることも含めまして、今も兒玉先生がおっしゃったんですが、やっぱり草津市がハード、ソフト含めて、教育に多くの予算あるいは事業を充実させることに努めておられるというふうな様子が、昨年度以上によくわかったかなというふうに思っております。

施策の基本方向として三つにまとめて評価の方の全体像も整理されているんですが、例えばそのうちの二つ目の、学校の教育力を高めるという、この内容の評価がどうやったかというふうなことをちょっと見てましたときに、昨年度と比べても全体に評価として随分A評価といいい評価をさせてもらえるぐらいに取り組まれているというふうなことに関心をいたしました。

その中でいろいろ教員の配置だとか、あるいは小中の連携だとか、特別支援教育の充実だとか、そういうことに係る事業が、偶然なんですか、23年度で1度終わって、24年度からまた新たに立ちあげられたという事業が幾つかあるんです。それは予算的にもかなりそういうことというのは最初は県の補助事業でいうことがあっても、続けていくのは市単独で進めてもらわんならんということがやっぱりあったりするんじゃないかなと思うんですが、23年度よりも更に充実させて、24年度というふうに進めてこられている様子なんかも見せてもらって、やっぱりすごいなというふうに思いましたし、更に継続していっていただきたいなという思いを強く持ちました。以上でございます。

兒玉委員長

はい、ありがとうございます。

それでは次に、長谷川さんお願ひします。

長谷川委員

長谷川と申します。よろしくお願ひいたします。

私は、私自身が草津で育ちまして、今、娘が幼稚園の年長組に通っております。今回はこのような貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。2日間にわたり教育に携わっておられる皆様からたくさんのこと教えていた

だきまして、わからないことが多いながらも一保護者、一市民として、私なりの感想を述べさせていただきました。少しでもお役に立てていれば幸いでございます。

外部評価委員をさせていただきまして、感じましたことは、あらゆる面で至れり尽くせりの取組がなされていて、それぞれに課題はあるものの、非常に達成率の高い結果が得られているなど感心いたしました。特に学校教育の面で、少人数クラスに担任のかたがいらっしゃり、そして加配のかたや特別支援、図書専門のかたなど、たくさんの人員がいらっしゃり、それをまたサポート、管理するかたがいらっしゃるという、そういったしっかりした体制に非常に安心いたしました。

九つの目標をもとに実施されているたくさんの取組を十分に理解し、大いに活用させていただくことが保護者の役目であり、市民の役目であるように思いました。それによって、教育や学びの場が更に充実するのではないかと思いました。以上です。

兒玉委員長

はい、ありがとうございます。

それでは、私どもの自己紹介と、それからこれに当たっての感想を述べさせていただきましたので、次に教育委員の皆様の自己紹介を兼ねて、それから、私ども第1回、第2回の評価委員会の、会議録の感想も交えながらお願ひしたいと思います。

初めに、小西委員長の方からよろしくお願ひします。

小西委員長

小西でございます。68歳の老骨でございますが、よろしくお願ひいたします。

兒玉委員長、それから久保委員には、昨年に引き続きまして評価していただき、本当に熱意ある意見を述べていただいたように思っております。議事録を読ませていただきますと、最初の御挨拶の中で、私たちは部外者ですから、的外れなことを言うかもしれませんがあくまでお許しくださいと、こういうふうに委員長さんなんかは言っておられましたけれども、実際に中身を読ませていただくと、的を射た鋭い意見、御質問がございまして、読んでいくと事務局が回答するのにあたふたしていた雰囲気も伝わってくる場面がございました。事務局の回答を受けとめられた委員の皆様がた、またこれを温かく受けとめていただいて、伸ばしてやろう、発展させてやろうという心構えを持って、私たちに接してくださいさったなというふうに感謝をいたしております。さすがに、こういう言い方をしては失礼かと思いますけれども、教育学者であられるかた、それから元校長先生、そういうかたが評価してくださってよかったですなというふうに思ってお

ります。

それから、長谷川委員さんにおかれましては、幼稚園のお子さんをお持ちの保護者という立場で、議事録を読ませていただきますと、読み聞かせなんかにも参加しておられて、いろいろとその保護者としての活動をしておられる、その知識と経験をもとに、ホットな現場の情報をもとにしている意見を述べていただいているように感じて、非常にありがとうございました。本当にありがとうございました。では、座らせていただきます。

今、委員長おっしゃったように、いろいろ評価していただいたり、意見を言っていただいた中で、ICT化についてということと、それから教員の育成についてというところが目に留まりましたので、その貴重な御意見をもとに私なりの考えに触れさせていただきます。

ICT化につきましては、これまでから草津市では教育研究所や、それから各学校におきまして、先生方の教育力の向上、それからクラスの運営、それから授業に備えての準備の多くの、先生がたが創意工夫された手づくりの材料、それから子どもたちの心を捉える工夫など、さまざまな角度から研究や実践が行われてまいりました。これらはICT化とは関係なく、今後も重要なことであると考えております。ICTは草津市の誇るもの一つでございますけれども、あくまで道具でありまして、そのソフトは教材であります。表面的なその便利さやそういうものに溺れることなく、教師はこれまで積みあげてきた技術や手法、創意工夫の結果をより効果的に生かすために、これをうまく活用してこそ、その価値があると考えております。そして今、草津市では、そのような方向に進んでいると信じております。

それから、もう一つ、教員の育成について、いろんな御意見が出ておりました。特に、兒玉委員長が指摘されたとおり、この10年くらいは年齢構成上若い先生が多くなるという状況にございます。逆に言いますと、学校内に若い先生を育ててくれる、あるいは相談に乗ってくれるベテランの先生が少なくなってしまっている、そういう状況であります。研究事業や専門別の研究会や教師塾やアドバイザーなど、これまでにもたくさん先生方に勉強していただく取組がございましたけれども、意欲に燃えて教職に就かれた若い有能な人たちを支えて、育てていくために、今までにない、若い世代に的を絞った新しい仕組みも必要ではないだろうかと、私自身は考えております。以上でございます。ありがとうございました。

兒玉委員長

はい、ありがとうございました。

そうしましたら、次に、馬場委員の方から、お願いいいたします。

馬場委員

教育委員の馬場でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

こないだこの冊子を届けていただきまして、読ませていただきました。本当に感心しました。たくさんの項目がある中で、本当に短い時間に評価していただいたと思えないぐらい端的に捉えられているというところ辺で、私たちが課題となるな、問題となるなと思うところはきちんと課題としてあがってきていますので、そういう点では草津がやっていることは、外部に対して開かれているんだなど、私たちの問題とするところも、外部から見ていただくところも同じということは、すごくそれは大事な視点なんだなというふうに思って、これを見させていただきました。

特に、検討を要するというふうに意見でいただいているところについては、これをどういうふうに自分たちが理解して、新しく考えていくかというところについて、私たちのこれからやっていく大きな課題にもなったかなというふうに思います。

でも、この評価の中に、すごく温かいというか、人間を感じるところがたくさんあって、これはこの教育に携わっているものにとっては、すごくこう、評価をしていただいたことが元気をもらえたし、またこれがんばっていかんならんなど、これだけわかつていただいたということは、がんばれるなというふうな、そんなふうな思いがいたしました。

いろんな面で草津市はハード面でもたくさんお金をつけてもらっていますし、また人の面でもたくさんお金を使っていただいて、教育を応援してもらっていますが、いろんなどんな便利なものがあっても、最終的に教育は人対人ですので、人が成長していくということが一番大事なので、いろんなものを使いながら、そういうふうな教育を目指していくのに、私たちも少しでも力が出せたらなというふうに思っています。以上です。

兒玉委員長

はい、ありがとうございました。

そうしましたら次に、村山委員の方からお願ひいたします。

村山委員

教育委員の村山です。今回は外部評価の皆様に大変、先ほどもすごくたくさん皆さん議論してくださっているねという話を向こうの部屋でもしていたんですけども、本当にたくさん細かく評価していただいて、本当にありがとうございます。私は、保護者代表というか、保護者枠という立場でここに入らせていただいているので、外部評価委員の皆様の御意見を伺っている中でも、やはりどうしても保護者の、一般と言ったらあれですけれども、教育関係のかたでない長谷川さんの、本当に一般市民の代表という感じの、本当に素朴な意見が、私も同じような立場でおりますので、すごく共感する部分もたくさんあります。

ますし、私も初めに教育委員会の一般の側から見た場合というのに対して、どんなことをしているのか、なかなかわからないというのがすごくありますて、そのころちょうど息子が小学校から中学校に上がる前でしたので、ちょうどその長谷川さん、今、小学生に上がる前ということで、これからどんな教育が待っているんだろうという不安のようなものが、それはそのときは私だけではなく、周りの小学校のお母さん皆さんに、本当に皆さん、公立の中学校に子どもを上がらせて、どんな感じになるんだろうというのをすごく皆さん持つておられたので、それをもつともっとそういう保護者の皆さんがたくさん知る機会があつたらいいなと思っておりましたので、そういう部分に関して、すごく素朴な意見を出していただいて、その中で専門のかたがたの御意見と、両方があって、すごくバランスがと言っては、こちら側から失礼になるかもしれませんけれども、すごく興味深く拝見いたしました。

そういう素朴な意見に対して、例えば賛否両論あるですか、こういった課題があるということを具体的にいろいろ提示していただきたりしている部分がありましたので、そういう部分については、教育委員会として一定の思い切った、例えば方針を決めていかなければいけないということも、これからあるかもしれないと思いながら、参考にさせていただきながら拝見いたしました。

児玉委員長

ありがとうございます。

そうしましたら、次に、麻植委員、珍しいお名前ですね。

麻植委員

一度覚えていただくと、はい、覚えていただきやすいのですが、教育委員の麻植です。よろしくお願ひいたします。

私は10月から教育委員に拝命させていただきましたので、逆に言うと、どちらかと言うと、外部評価委員のかたがたと同じような、逆に目線、初めてなので、これはどうなっているのかな、ここがどういうふうに進められているのかな、入って初めてのことだらけで、本当にいろんな、草津の教育はこういうふうになっているんだというのを中に入つて初めてわかったという形で、今、1年をもう少しで迎えようとしているんですけども、その中で本当に感じたのは、先生がたが本当にがんばっておられる。情熱を持ってがんばっておられる。それを本当に肌で感じることが出来た。この外部評価委員のこの資料もですから初めて目にさせていただいたんですけども、2日にわたり、本当に細かく、さつき馬場委員もおっしゃってました、温かい言葉で、またそれぞれの委員のかたがたが持つてある背景、長谷川さんに関しては保護者でしょうし、というそういうふうな、それぞれの立場から出てくる御意見というのも、とても自分も重なる部分があつて、いろいろ思いました。そして教育の中でも、がんばつ

てはる先生がた応援しないとダメだなど、支えるのが教育委員会の一つの仕事なんだろうなというふうに思っています。

もう一つこれを読ませていただいて、どんどん今、行政の流れが変わってきて、生涯学習、社会教育に関する部分が、市長部局の方に変わって、まちづくり協働課、まちづくり協議会というものが市としての動きの中になっています。例えば、地域協働合校にしても、青少年育成市民運動推進事業にしても、一括交付金として、逆に言うと市長部局の方に入ることになる。ですから、いかに市長部局と教育委員会が連携していくかというのが、これから大きな一つの課題ではないかなと思っています。スクールガード、今回も本当にいろんな事件がある中で、スクールガードの役割は大きいと思うんですけども、この中でもおっしゃっていた、教育委員会としても、また外部評価の委員さんの中からも出ていた人材確保の点、ここも多分そのまちづくり協議会がキーワードになるかなというふうに思っています。ですし、オール草津ということをおっしゃっていますので、本当にそういう意味でも部局を越えてオール草津で、子どもたちを守り育て、また市民も活力のある、そういう生き生きした草津になればいいなという、そういう願いを持っております。これを読ませていただきました感想です。ありがとうございました。

兒玉委員長

ありがとうございました。

そうしましたら、最後に三木教育長、お願いいいたします。

三木教育長

先ほどの挨拶でもお話させていただきましたが、2日にわたり熱心に御議論いただき、ありがとうございました。

この長大な会議録を拝見しまして、委員の皆様からいただいた貴重な御意見を草津の教育に生かさなければという思いを新たにしたところでございます。

昨年度も評価をいただいた兒玉委員長と久保委員におかれましては、依然として解決出来ていない問題を丁寧に御指摘いただきました。また、長谷川委員には、新鮮な発想で御意見をいただきました。改めて感謝を申しあげます。

私は昨年いただいた量的な追求から質の向上について、仕事を進めるうえで常に意識して取り組んでまいりましたが、これからもそれを柱に教育行政に当たらねばと思っております。委員の皆様には、幾つかの教育施策と取組について、過分なる評価をいただきました。第2回の冒頭で、兒玉委員長が「草津市が昨年と比べてどういうふうに変わったのかという認識を新たにしました。草津市、随分とがんばっていると感じた」と言われましたことを励みに、一層、教育の活性化と向上に向けて取り組みたいと思っているところです。以上です。

児玉委員長

ありがとうございました。

それで、以上で皆さんの自己紹介、それから感想等の御発言が終わりましたので、この後はしばらく懇談というか、自由に意見の交換をしたいというふうに思っております。どなたからでも構いませんし、これは意見交換ですので、 frankに思ったことを言っていただければというふうに思います。どなたか、こういうところについて特に発言したい、こういうところ気がついたんだけどというようなことがございましたら、どうぞ御発言願いたいと思います。いかがでしょう。

小西委員長

はい。

児玉委員長

はい、どうぞ。

小西委員長

よろしいですか。今まで、私4年間やらせていただきまして、きょう評価報告、評価をしていただいたことと含めて、私の思いをちょっと申しあげたいと思います。

学校や出先の現場の皆さん、それから事務局の皆さんのこと数年の積み重ねが、今回の非常に総じて良い評価になったというふうに思っております。

4年前、私が教育委員1年生のとき、21年度の評価書を見せていただいて、その中の取組状況の評価、今年もございますが、細かいところ各シートにあります。それから、一番最後にまとめがあって、結果一覧の目標評価と、これを見て、Bばかりだったんです。私、このころはまだ生意気でして、申しあげたことが、皆さんはおおむね達成のBにしておけば、無難だと思っているんではありませんかと、こう申しあげました。完全に達成出来たという自信の持てる仕事をしてください。多分、教育委員会の定例会か、こういう会議の議事録に残っていると思います。こういう生意気なことを申しあげました。この場に事務局控えておられますか、今も当時のかたがおいでになって、あのときはむかつくされたかたもおいでになると思います。今、お許しを請うておきます。

綾小路きみまろさんは、あれから40年ですが、あれから4年ということで、我々4年を、私は経ったんですが、24年度の結果一覧見ますと、Aが6つ、それからBが3つ並んでおります。私が批判した21年度のBばかりに続いて、22年度はAが4つになって、Bが5つになっています。23年度は何とAが7つ、Bは2つでした。現在の草津市の、教育委員会の皆さんには、自信に満ちているというふうに思っております。やるべきことはまだまだたくさんありますけれども、事務局、学校現場、各施設、外の皆さんも含めて、一体とな

つてよく取り組んでいただいたというふうに思っております。

来年度の後半には、教育振興基本計画の見直しが控えております。ここが私は正念場になると思っておりますが、私は10月に任期満了で、この10月に退任をいたします。ここからはまた三木教育長のもとでますます大きく飛躍をしていただけたものと信じて疑いません。というふうな思いと感想を持っておりますので、ちょっと話させていただきました。

児玉委員長

ありがとうございました。何か思いが切々と伝わってくるようなお話をしたけれども、他に何か。これは自由な意見交換の場ですので、何かございましたらと思いますが。

馬場委員

子どもたちの確かな学力を育むという点で、いろいろ心配をしていただいている点が課題として載ってあるのですが、例えば、電子黒板に依存し過ぎてはだめだとか、それから、タブレットのときにも、自分、子どもたちが自らものを書いていくということをやる、それはもう同時にいかなければならないということを課題として意見をいただいているので、これ本当にみんな思う、私たちも思っていることは一緒なので、そういう現代的なものを使いながらも、いかに子どもたちの学力をつけるために教師が授業を組んでいくかというところにかかりますので、先ほども言いましたけれども、結局は人対人ですので、間にはいろんなものが入ったとしても、子どもたちの顔色を見ながら、子どもたちの表現するものを見ながら、子どもたちの発言を聞きながら、授業を組んでいくというところに、現在の草津市はすごく力を入れていますので、そういう点で今までどおりの授業をしていくのではなくて、いろんなものを使いながらも、どの子にも興味を持って、授業に参加出来るということを、やっぱり一番狙って、現場は行っているというふうに思っていますので、そういう点では、来年度またこれを評価していただくときには、これがどんな形になっているのかなという、それはすごく楽しみにしているところです。

いろんな新しい施策を打ちながら、古いものも大切にし、というところに、教育現場での多分取組ではあると思うので、その点では、確かな学力をつけるためにがんばっているというところは確かです。

ただ、そこにもいろいろ挙げていただいている、例えば、スポーツであるとか、それは生涯学習課的なところで御心配もいっぱいいただいているところもありますので、それについては、これから少し精査しながら、中でもまた考えていかなければならない点もたくさんありますし、それから、学校とそれから地域とのつながりについても、まだまだこれから、それをよりよくするためにやっていかなければならない点もたくさんありますので、それは今回いただ

いた御意見をもとに、また組み直していかんならんかなというふうに思っています。

兒玉委員長

今、ちょうどそのICT化とかタブレット端末のことが出来ましたので、草津市はそういう意味では非常に先を走っているところですので、何かこれについて御意見とかございますか。私どもが評価しているときにも、いろんな御意見をいただきましたので、いかがでしょう。

私自身は教育の現場のときにこう考えると、昔そのこういう紙も鉛筆もないときに石版を使って書いていた、あるいは羊皮紙に書いていた、だけど、これは使う道具が変わっていくわけです。道具が変わると教え方も変わるという、それがずっと現代まで続いてきているわけでして、このICT化の波というのは、むしろ教育現場の中で積極的に活用していかざるを得ないツールだつていうふうに思うわけです。

それで、先生がたは今そのそういうツールが入ってきたということで、そこにいかに早く慣れるかという、そういう状況ですよね。その後にやっぱり控えているのは、どういうふうに有効に使っていくか、使われるんじやなくて、自分が使いこなしていくかということだと思うんです。だから、教材開発のときに、ツールがあるから、もう自分の教材開発はツールに任せればいいというんじやなくて、自分でツールを使いこなして、更にその上の教材開発を自分でやっていくという、こういう力を先生がたがつけていかれることは大事なのじやないかなというふうに思うわけなんです。

そのことが、今度は次の世代、子どもたちがその姿を見ていますし、ツールの使い方は子どもたちの方がもっと早いですから、そうするとその次の世代が一体どういうふうな教育を、自分が大人になったときに、次の子どもたちにしていくかという、こういうつながりが出来てきますので、こここのところをICT化というふうなことを言うのは簡単なんすけれども、やはりその教材開発力を先生がたが身につけていかれることは非常に大事なことなんじやないかなというふうに思っているんですが、いかがでしょうか。他のかたがた、どうぞ。

小西委員長

すみません。兒玉先生にちょっとお願ひというか、お聞きしたいんですけども、ICT化というのは、現在は先生がたがもう既に教師になって進んでこられた段階で20のかたも30のかたも40のかたも突然入ってきて、それぞれの能力で勉強してくださいということで、一生懸命先生がたに教育をしたり、指導をしたりということなんすけれど、教育学部の中でもう今の時代、こういう走り方をしているわけですから、学部の中でICT化に備えた教員のため

の単位というか、科目というか、そういうものがつくられていく可能性というのはあるんでしょうか。

・兒玉委員長

予算の関係もあるんですが、私どもの附属学校を持っていて、附属学校のところに電子黒板を入れたり何かしてます。今考えているのは、これは実は予算の関係もあると言ったことなんですが、学部の中に模擬教室をつくりまして、そこに電子黒板とか通信回線を引きまして、それでその附属学校うちの大学のその模擬教室みたいなものをつないで、それで相互にその模擬授業を見て、学校の先生にそれを評価していただくとか、コメントをいただくとか、そういうようなことを今考えているわけです。

だから、単に一つの教室の中で電子黒板を使いましたっていう時代が、やがて過ぎてしまって、要するにそのそれぞれの組織と学校と、別の学校との授業を相互につないでいくようなことが、今後起こってくるんじゃないかなというふうに思います。急速には無理かもしれませんけれども、あるいはその研究会をやるときに、一つの研究会を教室の中でカメラで撮りまして、それでそれを見ながら評価をしていくというような、そういう時代がやっぱり来るんじゃないかなというふうに思います。

そうでないと、単に電子黒板を入れましただけでは、これではだめなんじやないかなと思うんです。私たちがやっぱり目指しているのは、教育実践の高度化ということですので、実践の高度化をこのＩＣＴ化の時代にどう図っていくかということを考えていくと、やはりそういう研究授業を相互に見合うと、行かなくても、行けないかたは行けなくてもいいけれど、自分の学校のそういう施設を使って状況を見て、それでコメントするというような、そういう相互のコミュニケーションツールとしての使い方があるんじゃないかなというふうに思っております。

・小西委員長

ありがとうございます。

・兒玉委員長

いえいえ、あの、はい。

・三木教育長

昨年のこの評価委員会のときにも、兒玉先生から、その電子黒板であったりＩＣＴの問題について、幾つか御示唆いただいたし、そのことは今も覚えてるんですけども、先ほど馬場委員の方が、教育は人と人、人対人やというふうに言われましたので、やっぱり教師が学校現場では子どもたちにどう理解させるかと、教育に関心を持っていただくかと、学ぶ意欲を引き出すかという意味では、やっぱり電子黒板ではないんですよね。やっぱりきっと、教師は教

師力を持ってやると、そのときに電子黒板もうまく使うということが大事なんであって、電子黒板万能主義ではないと、しかし、電子黒板も使えますという形で、やっぱりしっかりとやっていく。そのためには、教師にちゃんとサポートすることをしないと、言われたように、子どもの方がいろんな意味で早く動いてるところありますので、ともすれば先生が子どもに、これどうするんやったなんて、機械の使い方ではなくて、教育の中身をどういうふうに教えられるかということが、これから求められてくるんじゃないかなというふうに思います。

馬場委員

私たちもタブレットを使った授業であるとか、そういう電子黒板を使った授業であるとかいうのは参観させてもらっているんです。現場は汗をかいて、それこそもう本当に先生は一生懸命やってはるし、ありがたいことにボランティアか、市からつけてもらってるかたちが、蔭ながらその授業を支えながらというところ辺も見せていただいていますので、当分の間そういうふうな手助けをする人というのは、授業する場合にはどうしても必要なので、そういう点をやっぱりこうやって見せてもらうことで、市の方もこうやって、人もつけていただいているという、そういう点もありますので、見せてもらったことはすごくよかったですというふうに思います。

それが、もし来年度見せてもらったら、それが質が変わっていくと、一足飛びには出来ませんので、だからそれがやっぱり公開していく意味が、やっぱり積みあげていくということなんかなというふうに思っています。

兒玉委員長

なかなか、年代の上の先生がたは適応するのが非常に難しいというところもありまして、なかなか追いついていかないんですけども、でも、何年かすると、使うのが普通になってくると、だからそのうえで次のレベルを狙うというような、そういう段階的に引きあげていくようなことになると思うんですけども、どうでしょう、久保先生なんかも、現役からちょっと離れられて。

久保委員

ちょっとずれた話になるかもわかりませんけど、その最初に学校なんかにパソコンが入ってきたころは、そのパソコンの操作に時間とられてやってる分、子どもと関わる時間が減ってしまって、それで本当にいいのかというふうなことを、一方でやっぱり意見として、議論としてあつたりしたんです。それがだんだん進んできて、そら今、パソコン使わん先生というのはもちろんないです、でも、そういうＩＣＴとか、いろんな教育に関連する機器が新たに開発されて導入されて、それに慣れるということと、でも一方でやっぱり教育は人のつながりで進めるわけですから、そういう意味の子どもとのつながりとか、あるいは教員間のつながりとか、学校としてのオープンな切磋琢磨出来る雰囲

気とか、そういうことというのはやっぱり大事だと思いますし、私はそういうことを思っている中で、今回ずっと評価させてもらった中で、先ほどは言いませんでしたけども、授業研究を実施されている回数がものすごく、前よりも増えているというふうなことを見せてもらいました。それから、研究奨励事業にたくさん応募されていて、それを他の人に聞いてもらうような機会の日程づくりがなかなかちょっとまずかったというのは聞きましたけど、ものすごくいい姿として出てきているの違うかなというふうに思いましたし、やっぱり、今出ているような、そういう授業をどういうふうに開いて、議論して高めるかみたいなことは、やっぱり学校の職場の問題とか、そういう体制の問題とかいうようなこともあるし、教員一人一人のそういう自分の指導力を向上させるというふうな意識に関わっていることですので、そういう部分も並行して進めてきてもらっているから、状況がよくなっているんだと思うんですけど、やっぱり大事なポイントかなというふうに思いながら、今聞かせてもらいましたんですけど。

麻植委員

この、ＩＣＴのこの部分で、もう一面この委員長が、この中で言ってくださった情報セキュリティーの部分、これがどうしてもいじめの問題とつながってきたりしている。ここ、やっぱりその活用の部分ともう一方のところの手だけみたいなところを、子どもの部分が、本当に子どもたちって今もう修得が早いので、小学校の子でももう平気で、そういう実生活の中で溢れているので、その情報セキュリティーのここの部分を並行して子どもたちに伝えていくということの大さをちょっと、これいじめの問題やったりも含めて関わってくるので、強く必要かなと感じているんですが。

児玉委員長

今、自治会とかそういうところでも、子どもたち、親御さんを対象に、子どもたちは今ここまでやれているんですよと、だからここに気をつけなくちゃいけませんよというような、そういう講習会を開いていますよね。だから、大人が子どもの、どういうふうに使っているのかというのも、ついていけなくて知らないと、だから、知らない大人に対して教えるということと、それから、子どもたちまだ善悪の判断とか、自分のやったことがどういうふうに人を傷つけかとか、そういうようなことに余り頓着しないで使っちゃうと、便利なツールとして使っちゃうというところがあるので、そうすると、子どもたちに対する情報セキュリティーの講習会とか、学校でそういう時間をとって教えるとか、そういうことを今後はもっとやっていかないといけないんじゃないかなというふうに思います。

三木教育長 別のテーマでもいいですか。先ほど3人のかたから、評価委員、もしくは教育委員になるまで、草津の教育については余り知らなかつたというお話がありましたけども、これは学校教育だけではないと思いますけど、市民意識調査を見ましても同様の回答といいますか、そういうことがあります。教育委員会としては、マスコミ等への情報提供を積極的にしてきたつもりなんすけども、それでも具体的に関わるまで余り知らないとか、そういう取組があつたんですかというお話もこの中にありましたけども、なかなかそういう意味では教育委員会の発信力といいますか、周知が出来ていないということで、今年度ではないんですけど、25年度から「コンパス」という教育委員会が広報紙をもつて、市民に、全市民に配付をするという形でしたんすけれども、これも、なかなか興味を持っていただかないと、読んでいただかないというところがあると思うんですけども、教育の取組なり活動を多くのかた、社会に知つていただくためには、もっと他にどのようなことをしたらいいかというアイデアがもしありになればお聞きしたいなというふうにちょっとと思ひまして、私の方から質問をさせていただきたいなと、この場はそういう場所やと。

兒玉委員長 難しいことを。

三木教育長 ちょっと違う話になりますけど。

兒玉委員長 はい、結構です。どうですかね。やっぱり問題は情報が溢れている社会ということですね。だから、情報が溢れている社会で、誰もがいろんなインターネットの方を通じてWEBページに情報を載せていくと、そうすると選ぶのはあなた自身よという、こういう状況になっているんですよね。だから、そういう一昔前でしたら、情報発信する場所が非常に限られていたので、広報紙なんかを丹念に読んで、それで、ああここでこういうようなことをやってるのかというような、そういう理解をされたんですけど、今それ以外の情報源がいっぱいあるもんですから、埋もれてしまうんですね、どうしても情報が。どうしたらいいんでしょうかね。私も、どうしたらいいんだろうかと言われて、これです、という名案はないんですけども、何か思いつかれるようなことってありますでしょうか。

村山委員 一つには、一例というか、ですけども、ちょっと今、探せないんですけど、ここにも確かそのホームページの更新についての、47ページですね、具体的に言いますと、例えば、私が知りたい学校の情報を得ようとしたときに、ホームページを見たときに、なかなかその学校によって、これよく出る問題点ではあ

るんですけども、たまたま得意な先生がいらっしゃる学校だと、すごくまめに更新されているけれども、そうでない場合に、皆さん本当にホームページ、例えば専門で、専任でやってらっしゃる先生がいることなんてもちろんないわけで、皆さん本職の学級のことなどされながら更新をされるというのがなかなか難しかったりして、最新情報がなかなかあがらないところと、いろいろ差が出てしまうとか、内容についても、本当にさまざまだったり、それはそれで各校の特色を生かすとか、そういう伝えるという意味ではいいかもしないんですけども、一方でそういうふうに同じ市内でもそういう部分で差が出てしまうとか、そういうところが一つ課題であるかなと、以前から思っているところで、手つ取り早くというか、誰でも、インターネットにアクセスすれば見られる情報ですので、いかに生かしていくかというか、有効に使えば本来一番いいことであって、その部分はいろいろ考えていくこともあるかなと思っているところなんですね。

小西委員長

今、それに関連して、私も教育委員、素人教育委員ですから、学校のホームページは毎回見てます。それで情報を得て、どうしてるかというのを、よくわかる学校もあるし、校長先生が熱心で、もう一生懸命、写真の好きな校長先生は写真版ばっかり並べてるとこもあり、いろいろあるんですけど、前の校長先生が辞められたのがそのまま残っているような学校もあるんです。それはそれでまあもうちょっとちゃんとしてくださいと言いたいのですが、その周囲にいっぱい民間の人人がつくった学校情報というのがいっぱいある。保護者のかたが、この学校の何やら情報みたいのがずらっと載ってる。それは地図屋さんが地図売るためにやってるものもあるし、そういうとこに載ってる。何々小学校の何やらのうわさとか、ダーツとこう、PTA情報、ここはいい学校やとか、悪い学校やとか、そこまで載ってるんです。それを先ほど児玉委員長が言われたように、それをどう選択して、どれが正しいのか選別していく能力がないと、ええ、この学校ってこんなに変な学校なんという、そんなんあります、確かに。だから、それに負けないようなホームページをつくらないと、ホームページを見に行って、悪い情報取りに行ったみたいな形になるんで、委員長がおっしゃったように、情報が溢れまくってますから、1回興味を持って見ていただくと、相当えげつないことが書かれている学校情報もあります。怖いですね、というようなことなんんですけど。

長谷川委員

私も今回この委員をさせていただくので、初めてそのホームページを見たりですとか、教育委員会のページを開けてみたりとかですとか、初めてそこで拝見したんです。こういう委員をさせていただかなかったら、恐らくそれを見る

機会もなかつたであろうし、どうかなと思っても、わざわざホームページを立ちあげたり、以前に配られたであろう冊子を探すこともなかつたと思うんすけれども、たくさん情報が、先ほどもおっしゃられたようにあるので、どれを見ていいかわからないというところがありますので、そうではなくて、こう参加出来る場というのが、例えば、あれば、自ずとそれをそこにこう興味を持つというか、意識的にそれを調べてみようと思つたりですとかするのではないかというふうに、私自身がそう思いました。

多分、教育に興味を持っておられるかたですとか、教育委員会ってどうなつてるんだろうと思っている市民のかた、保護者のかたってたくさんいらっしゃると思うんですけども、ちょっとこう雲の上の存在のような、簡単に関わつてはいけないんじゃないいか、そんな私たちなんて関われないわっていうように思っている保護者のかたも割といらっしゃって、今回ちょっと私がこう委員をすることを話の中で出てきたときに、そんなん、私だったらそんなんとても行けへんわみたいなことを何人かが言つてはって、でも、そのかたたちが教育に興味がないかと言えばそうではなくて、これから、小学校、中学校の教育はどうなんだろうとか、先日出されました学力の順位みたいな、そういうのを見ても、結構そういう話も話題になるので、興味はおありなんだと思います、皆さん、教育に関して。

ですから、そのそういういろんなかたが参加するのをたくさんつくるのは大変だと思うんですけども、そういうたくさん市民のかたが参加して、教育のことに関して意見を交換する場とか、教育委員会ってこういうふうなことをして、こういうことを発信していきたいとかいうような、話し合いの場ですかがあれば、皆さんちょっとこう身近に感じていただいて、その後もやはりそのことに関して記事があれば見てみようとか、なってくるんではないかなと思いました。

麻植委員 よろしいですか。

兒玉委員長 はい、どうぞ。

麻植委員 私もそこはちょっと感じたことがあって、市長さんへの、市長への、何でいうか、メッセージみたいな、そういうメッセージ箱がありますよね。教育委員会に何かをお伝えしたい、聞きたいとかいうのは、パブリックコメントみたいな何かそういうものを、教育委員会からどうですかと、意見を求められたときにだけこう答え、言うことは出来るけれども、普通に本当に疑問、質問があつたときに、どこに持つていっていいんだろうかというふうに、そういう何か身

近な、例えば市長さんでしたら、市長が出向いていってくれはったりとか、それがこの教育委員会の中で出来るかどうかは別のものとして、身近に感じてもらう努力の、さつき案がないですかという点では、市がやってはることも、何かちょっとヒントになる部分があるのかもしれないなというふうに感じたことはありました。誰に言つたらいいのかというの、聞かれたりは。こういうふうに、こういうふうになつたらいいなと思うんだけど、どこに言えばいいのって。私が教育委員になつたら、『麻植さんに言うわね』って言われたこともありしてて、その意見を上に通すラインが一つあってもいいのかなというふうに、それで初めて双方向の意見交換が出来るのかなと、お伝えしたいばかりの気持ちだけではなくって、何をこう知りたがってはるのかなと、こつちはいっぱいメッセージ出してるつもりだけど、届いてないというのは、それがずれる可能性もあるかなと思うので、それをキャッチする意味でも、そういう場があつてもいいのかな、方法があつてもいいのかなというのは感じました。

兒玉委員長

教育委員になられると、多分身近に感じてもらえるんでしょうけど、やっぱり一般のかたからすると非常に堅い、自分たちが入り込めない世界みたいな気持ちがするんですよね。

麻植委員

ここには、長谷川さんの方から、私はちょっと文化の方が担当みたいな気持ちでいてるので、報告書59ページの施策に、いろんな参加型という形で1回切りの講習をされていても、例えば、ちょっと期間を費やして、育ててやるという、そういうふうな、これは伝統芸能のどこで言ってくださってるんですけども、この議事録の本当に後ろから3ページぐらいのところの部分なんんですけども、大津市のこと、ちょっと出されてるんですけども、そして、育ててやるという部分のところが、私は実は米原の方でも、文化庁の方の予算もとつもらつて、20回ぐらい毎週のように子どもたちに和楽器教えに行って、それで発表のところ、育てるという、育成という部分ですか、そういう部分の観点でワークショップをしたりしてるんですけども、今のこの関わり見ていると、その楽しさを知って、入り口は開くんんですけども、育成の部分の力が弱いかなというのは、ちょっと感じていたりしました。

例えばブックトークなんかにしても、お話はいいですよっていう後のフォロー、そのところまで、もう後一押し何かがある形で施策をとっていただけるとうれしいなというのを感じたこともあります。

兒玉委員長

マスコミへの情報提供というところから始まって、いろいろと知つてもらうためにはどうしたらいいかというところまで話が広がってきたんですけども、

何かこれについて、もうちょっと何かこういうところは言っておいた方がいいかなというところありましたら。

なかなか、教育委員会の方から情報を流すというのは、どうしても堅く感じられてしまいますよね。カジュアルなというか、日常の中でいつでも接することが出来るというよりも、ちょっとやっぱり堅い感じがしてしまうので、そこが何というか心理的な距離があり過ぎてしまうのかなというふうに思うんですけど。でも、じゃあそれをどうしたらいいのと言われるとあれなんですけど、困ってしまうところもあるんですけど。

三木教育長

全体的に、今、評価委員の方ですけども、草津の教育委員会がいろんな意味で活性化していると、一生懸命がんばっているということは言うていただいているんですけども、こういういろいろ努力をしていることが外に見えない、今のようにカジュアルな形ではなくって、表立った形でポンとこう出てくる。しかも、今、教育委員会制度そのものも含めて、さまざまな形で評価がある中で、教育委員会いろいろ言つても、それは弁解にしかすぎないんじゃないかという思いのかたも中にはおられるという中で、やっぱりさっき言いましたけど、「コンパス」という、ああいう中で、学校教育だけでなしに、さまざまな分野のがんばっている姿というのは、なかなか知られないんですね。

例えば、学校通信でいろいろ保護者に配つても、それはその学校の宣伝やなぐらいになるかもわかりませんけども、ああいう形で市民向けに出すという、これは非常に大きなことやないかなと、そういう意味ではそれをうまく、今言われたような趣旨をそこの中で出来るだけカジュアルなことも含めて、生かすというか、ビジュアルな形で知つていただくという。

始まったところですので、それを内容豊かにしていくということも、これからとの与えられた課題やなというふうに思つておりますけれども。

兒玉委員長

今の若いかたというのは、画像でパッと見るということは出来るんですけど、文章を丹念に読むということを余りされないです。ですので、お役所の情報発信の仕方というのは文章で発信するんですよね。その画像処理的な発信のされ方をされないものですから、だから、そんな何というか、引きつける力がちょっと、今の若いかたにとっては弱いんです。

馬場委員

ということは、さかのぼってそういう若者が育っているということを考えれば、やっぱり小学校、就学前あたりから、きちんと本に向き合うとか、字を通してという、やっぱり教育がすごく大事やということになりますね。画像ももちろん大事やけども、ものをね。だから草津ですごく読書指導もがんばってい

るんですが、そういうことを小さいときから積みあげていくということをしておかないと、ますます、そういうようなものを出したところで。

でもね、私も今住んでいるところで、例えば、志津南小学校と志津小学校の学区が出された、学校のその学校だよりがあつて、回ってくる、回覧板で回つてくるんですが、一応はやっぱり私たちの世代は読むんですよ。だから、ここはこの教育委員会は「コンパス」を出した場合、読まへん人もあるかわからへんけども、見られる方もやっぱりたくさんおられると思うので、それもやっぱり結局は積みあげやからというふうに思うので。

三木教育長

ああ、続けることね。

馬場委員

続けることはやっぱり大事やなというふうに思うんです。そしたら、ふつと見たときに、自分の知ってるところで、ああこんなことしてるのかと、わかつたら次また読みますよ。だから、どこかでそれにひっかかるところがあれば、少し気は長くはなるけども。

三木教育長

読んでいただけるように、これから。

小西委員長

兒玉先生、今度の「コンパス」は、プールで子どもたちがワーッと喜んで水泳している写真がトップ、私の顔が2番目、画像が多い、割合そやさかい、目にはついたと思うんですよね。

兒玉委員長

あと何かその文章の表現の仕方、堅くどうしてもなりがちなので、出来るだけこう柔らかく考えてみると、その表現の仕方を考えた方がいいかもしれないですよね。

村山委員

先ほどの、こちらの部屋でちょっと雑談的なときに、そのお話も出たんですけど、出たというか、私がこの議事録について、ちょっとお話をしていたんですけども、その間が、議事録はもちろんなければいけないですし、ただ全文があった、何か情報を得たいなと思ったときに、全文しかなかつたら、どうやって探すか、私が実際その教育委員仰せつかったときに、すごく困った点であったんです。そういうことを考えると、その「コンパス」で、こういうのが、こういうことがあります、こういうことがありますって、絵とそれから見出したことと、具体的にこんなことをしましたっていうわかりやすい文章があつたら、そこをきっかけに、じゃあもっと詳しく知りたいという人は、遡って、遡ってというか、詳細に知りたい人は議事録を読めばいいし、間がなかつたと

ころがつなげられるかなっていうのが、すごくいいんじゃないかなというか、そういうふうなきっかけになればいいなというふうに思うんですけど。

麻植委員

「コンパス」でやってられることをほめるとか、そういうことをすることに、現場の先生がたも、また活力がわいてくる。これだけの努力をやっていても、知らない状態ではなく、例えば、いろいろ研究材料、研究発表されたことを表彰する。こういうことを先生がたはがんばっているんですよという、教育関係のものは知っていても、普通の、一般の市民のかたって御存じないけど、ああ、こんながんばってはんねやなという、市民も知ることも出来るけれども、やった先生がた、人間ってほめられて嫌な人はいないだろうし、やっぱりそれがまた元気のもとで、またがんばろうという気持ちにもなるし、そういうふうな、やってられる、教育委員がやってがんばっていることをアピールする紙面であってもいいんだろうねっていう話も、こちらの教育委員の中ではしてたかなと思います。

兒玉委員長

このごろ叩かれることが多い教育委員会ですからね。

麻植委員

そうですね。ほめてもらうことってなかなか。

兒玉委員長

はい、ありがとうございます。これですね。

小西委員長

口で言うより早いです。

兒玉委員長

こういう紙面の作り方なんですね。随分工夫されてるんですね、これ。

長谷川委員

確かに、文字ばかりではこう行きがちなところが、写真とかがあると、読んで、何の写真かなと見て、横に字があると、ああそうかつて、結局ちょっと読んだら全部読むことになるので、まず読み始めるきっかけをつくるのって本当に大事なんだと思いました。

兒玉委員長

これは、続けられたらいかがでしょう。創刊号が7月15日なんですね。つられて。

先ほどもちょっと馬場先生もおっしゃったように、子どもたちの文字を通して考える力をどう育成していくかというのは、逆に実は今すごく大事なんですね。つまり、画像の情報が溢れていて、パッと見て、パッと忘れていくという、そういう時代ですので、物事を深く考える力をどうやってつけていったら

いいだろうっていう、そういう時代に来たと思うんです。

だから、その情報はある。とてこようと思ったら、WEBページからとつてこれると。自分で考えなくとも、そこに書いてあるから、そうすると、それをこう何か適当に組み合わせて何か一つの形が出来るという、こういうことに長けていく子どもたちがこれから出来てくると思うんです。だけど、それはその、そういう技術的なことですよね。どこからどういうふうにとってきてという、これ技術的なことですよね。やっぱり、そしたらそれは誰もが出来ることですね。誰もが出来ることは、誰もがやるわけですから、そうすると、それとはちょっと違うことを求めていかないと、教育の可能性を信じて求めていかないといけないかなと、そのためには、深く考える力をどうやって小さいころからつけていくかっていうことが、とても大事になってくるんじゃないかなと思うんですけども。

一つはやっぱりその画像を見ると、すごく楽しいですよね。だけど、もう一つは、やっぱりこう文字情報の中から、自分でいろいろと頭の中で考えていくという、その思考力をどういうふうに高めていくかということだと思います。

馬場委員

学校訪問させてもらっても、小中は本当に図書館が、昔の図書館という感じではなくて、図書室という感じではなくって、本当に親しみやすい形で今現在つくられていますし、私、時々幼稚園も行くことあるんですが、幼稚園は本当にたくさん本がふえました。もうそれは感心しています。市の援助とかをしてもらっていると言うてはったんですけど、就学前から、それから小中と合わせて、環境はどんどん変わりつつあるというのは、やっぱりこれ草津市の、一つの蔭ながらの努力点かなと思うんですが、多分その点では、これから少しづつその成果が出てくるかなというふうに思います。その点は絶対大事だと思うので、文字を通したり、自分で表現して書いたりとか。

児玉委員長

そろそろ時間が迫ってまいりましたので、まとめに入りたいというふうに思いますけれども、まとめといいましても、自由な意見交換をさせていただきましたので、外部評価の私ども委員は、これから草津市の教育委員会に何を期待するかと、それから教育委員会も、教育委員の皆様には、からの教育委員会の展望というような、こういう視点から御意見を頂戴したいと思います。

私の方から、差し出がましくて申しわけないんですけども、何を期待するかということについて、お話をさせていただきたいと思います。

草津市は本当にいろんな努力をされていて、先進的な試みもされておりますので、教育委員会としては、これからもその試みをずっと継続していかれることを期待しております。どうぞ、滋賀県の中で教育の先進的な市であるという

ふうな、そういう位置づけを保っていただけるとありがたいなというふうに思います。

ということは、いろいろな点で、子どもの力をいかにつけていくか、子どもの思考力をいかにつけていくかということも大事ですし、先生がたの教える、教育方法の技術みたいなもの、それを高めていく、同時に先生方の技術だけではなくて、指導する力、教材開発の力、総合的な実践力を高めていくように努力をしていただけたらというふうに思います。

今、恐らく草津市の先生がた、そういう努力をされている最中だと思いますので、それを継続してやっていただけたらなど、教育委員会の皆様がたには、それを是非とも支えていっていただきたいなというふうに思います。以上でございます。

次、久保先生、ございましたら、お願ひします。

久保委員

いろんな事業を展開されて、それも予算を伴うことに関わって、大きく進められている背景というのは、やっぱり市長部局とか、あるいは議会とか、そういうことのつながりのよさが反映してるんだと思いますし、先ほども出ていましたように、いろいろと学校、教育委員会は叩かれることが多いというか、批判されることが多い中なんですけど、是非、その今、草津市の教育委員会として進めてもらっていることが、更に充実していくように、そういうつながりも大事にしていただきたいというのと、あわせて、学校と教育委員会が、どういういい関係であるかということも、これは実に大事なことだと思いますし、いろんな事業に取り組む学校があって、取り組む教師がいてということは、そのつながりのよさを反映していることだと思いますので、是非、さっきもちょっとと言いましたけれど、教員のがんばる場所を、やっぱり認めていける場所を、たくさん用意してもらうとか、そういうことも一方でやってもらいながら、そういうつながりのよさも大事にして、事業を発展させていっていただきたいというふうに思います。

それから、昨年のときにもちょっと言うたんですが、学校といつても、小学校と中学校と、よくその連携の問題が話題になると思いますし、そのことに教育長さんの方も昨年度がんばって力入れるつもりでいますって言っておられて、確かにずっと中身見せてもらって、そういうことにも力入れて進めてこられてるなというふうに思ったんですけど、それも親は一緒に、関わりがどう、小学校と中学校とで違うのか、みたいなことで、やっぱり関係がうまくいかなくなることも、まだまだやっぱりあると思いますし、そういう意味の学校間のつながりも、深まって、充実していくようなことに努めていただけたらありがたいなというふうに思います。

兒玉委員長

はい。次、長谷川委員、よろしくお願ひします。

長谷川委員

草津市は私立の小学校がありませんし、中学校も1校しかありません。以前では、大都市を中心に盛んであった幼児教育ですとか、小中学生の塾というのも、近年非常に草津市にもたくさん出来ておりまして、多くのお子さんが通つておられます。それは、それだけその保護者の教育に対する意識というのが高まっている証拠だと思うんです。そういった、教育に関心のある子育て世代のかたに、わざわざ遠くにある私立に通わせなくとも、草津市の公立学校でも十分に充実した教育を受けることが出来る、安心して通わすことが出来ると思っていただいて、進んで地域に学校に通えるような学校づくりをこれからもお願ひしたいと思っております。

そして、文武両道という言葉がありますように、文化面ですとか、スポーツ面での発展もやはり大切にしていただけたらと思います。

また、第一線を退かれたかたが、気軽に参加出来、地域に溶け込めるような取組の中で、子どもたちを見守っていただき、保護者とともに子どもたちを育てていけるようなまちづくりを期待しております。以上です。

兒玉委員長

ありがとうございました。

そうしましたら、今度は、教育委員会、草津市の教育委員会の展望についてということで、小西委員長の方からお願ひいたします。

小西委員長

この間、ある会合で同席させていただいた県の教育委員会のかたから、草津市は、何事にも対応が早く、適切な解決をしておられると、その力はすばらしいですねと、ほめていただきました。先ほどもちょっとと言われましたけど、人間お世辞でもほめられると、こんな老骨の身でもうれしいもので、もっとがんばらんといかんなど、そういう感じで受けとめました。

ただ、ほめられはしましたけど、もちろん完全というものはありませんので、もっと努力せないかんと思います。来年度が、前にも申しましたけども、当市の教育振興基本計画の5年目ということになります。見直しの時期ということです。仕事に追われているだろう現場のかたがたにとっては大変ですし、前例踏襲というのが手っ取り早く無難ということもありますけれども、この見直しの機会に、面倒でも新たな切り口、それから新たな試みを積極的に取り入れて、可能性をもっともっと追求して、発展に結びつけていきたいものだというふうに考えております。

外部評価委員の皆様がた、本当に熱心に評価してくださいまして、本当にあ

りがとうございました。

兒玉委員長

ありがとうございました。

そうしましたら、次、馬場委員。

馬場委員

学校現場であるとか、それは教育委員会にしても、楽しい仕事ばかりではなくて、ほとんどが大変な仕事があって、わずか喜びがあると、その喜びがあるおかげで、また次がんばろうかということに多分なってるんだと思うんです。そのがんばりが、やっぱり認められるというか、そういうことがお互いに話が出来るような場が、いろんなところであればいいなというふうに思っています。

今、夏休みが終わりましたけども、夏休み、いろんな研修会の会場に、いろいろ先生がたが現れたりとか、それから、いろんな研修会等もありますけれども、悩みがちょっと早くから出せるような、そういうふうな職場関係であるとか、それから、そういう元気な現場の中から、子どもたちは育っていくというふうに思いますので、そういう現場をつくるために、私たちも応援していきたいなというふうに思っています。以上です。

兒玉委員長

ありがとうございました。

そしたら、すみません、村山委員、お願ひします。

村山委員

先ほどもちょっと出ましたけれども、今、量より質をという方向で、草津市の教育委員会は進めておりますけれども、その部分もやっぱりこれからも引き続き大事にしていかなければいけないなというふうに、いつも感じておりますし、先ほどの、文字を読む力というのも、そういうところともつながってくると思いますし、例えば、ＩＣＴの機器を何台増やしたからいいという問題ではないですし、何か新しいことをして、どれだけその中身が充実したかということに、より重点を置いていかなければいけないと思いますけれども、質の問題というのは、やっぱりすぐに結果が表れることではないと思いますので、そういう部分もやっぱりこれから評価の面においても、いろいろ考えていかなければいけないことなんではないかなというふうに思うんですけども。

本当に、底力というか、本当に子どもたちが真の力つけられるような教育というものを、今後も追求していってほしいなと思います。

兒玉委員長

ありがとうございました。

そしたら、麻植委員、お願ひいたします。

麻植委員

いじめの問題とか、子どもたちを取り巻く教育環境、決して良好であるとは言えない現状があるとは思っていますが、その中で、草津の教育委員会の関係する各課、本当にそれぞれ施策を遂行されています。ありがたいなと思っています。予算の関係、いろいろ、さまざまな要因もあって、縦割りのリスクが常につきまとっているのではないかというのも感じています。さっきも久保委員から、市長と議会のつながりが、ここ草津は良好だねと言ってくださいましたが、私も、現在常盤の学区の、まちづくり協議会の中で関わっていますが、市長部局、これはまちづくり協働部、含め、各課の横断的な視点を持つことの重要性を肌で感じています。

生まれてから、生がなくなるまでが全て教育だと考えていますので、本当に幼保一体化の関係で、どうしてもその部分は市長部局になってるんですけど、こここの連携とても大事だと思っています。ですので、全てにおいて、オール草津で取り組むということを、やはり大事にしながら、常に先生がたとか、あと事務方のかたがたがされることの応援団であり続けたいなと思っています。ありがとうございました。

兒玉委員長

ありがとうございました。

最後に、教育長、お願いします。

三木教育長

市民の要望を受けまして、さまざまな施策や取組が展開出来ているのは、今、麻植さんも言われましたけども、市長部局と教育委員会が連携しているからだというふうに思います。改めて、教育委員会の基本理念であります「子どもが輝く教育のまち・出会いと学びのまち・くさつ」これを目指して取り組みたいと思います。以上です。

兒玉委員長

ありがとうございました。

いろんな御意見をいただきましたけれども、予定の時間を私の不手際で少し過ぎてしまいました。これをもちまして、教育委員の皆様と、それから外部評価委員の懇談を終わらせていただきたいと思います。

活発な御意見を頂戴いたしまして、懇談の場も有意義なものとなりました。このことには感謝いたしております。小西委員長初め、教育委員の皆様、外部評価委員の皆様、ありがとうございました。

それでは、本日の懇談は終了いたしましたので、事務局に進行をお返しいたします。

教育部副部長

委員の皆さん、長時間御懇談をいただきましてありがとうございました。ま

(総括) た、児玉委員長様には、委員会の進行につきまして、大変お世話になり、ありがとうございました。

今後、本日の懇談会の会議録をまとめさせていただきました後、草津市教育委員会事務の点検および評価の報告書、これは9月の定例教育委員会にお諮りし、議決の後、市議会に報告するとともに、市のホームページでも公開してまいりたいというふうに考えております。

それでは、これで、教育委員会事務外部評価委員会は全て終了いたしました。委員の皆様、どうもありがとうございました。

閉会 午後 3時12分